

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成25年4月25日(2013.4.25)

【公表番号】特表2012-522306(P2012-522306A)

【公表日】平成24年9月20日(2012.9.20)

【年通号数】公開・登録公報2012-038

【出願番号】特願2012-503427(P2012-503427)

【国際特許分類】

G 06 F 9/54 (2006.01)

【F I】

G 06 F 9/06 6 4 0 C

【手続補正書】

【提出日】平成25年3月8日(2013.3.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項22

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項22】

プラグインを実行するためのコンピュータプログラムであって、  
 実行されるプラグインの安定性レベルを取得するための機能と、  
 少なくとも部分的に前記安定性レベルに基づいて、利用可能な複数のプラグイン実行モードから選択される、プラグイン実行モードを決定するための機能と、  
 前記決定されたプラグイン実行モードに従って、前記プラグインを実行するための機能とをコンピュータによって実現させるコンピュータプログラム。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0069

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0069】

上記の実施形態は、明確な理解を目的として、ある程度詳細に記載したが、本発明は、提示した詳細に限定されるものではない。本発明を実施する多くの代替の方法がある。開示された実施形態は、例示であって、限定するものではない。

適用例1：プラグインを実行する方法であって、実行されるプラグインの安定性レベルを取得することと、少なくとも部分的に前記安定性レベルに基づいて、利用可能な複数のプラグイン実行モードから選択される、プラグイン実行モードを決定することと、前記決定されたプラグイン実行モードに従って、前記プラグインを実行することと、を備える方法。

適用例2：適用例1に記載の方法において、前記プラグインの安定性レベルは、記憶場所から取得される、方法。

適用例3：適用例1に記載の方法において、前記複数のプラグイン実行モードは、利用可能な複数のプラグイン安定性レベルに対応している、方法。

適用例4：適用例1に記載の方法において、前記複数のプラグイン実行モードは、複数のローダ・プロセスに対応しており、前記決定されたプラグイン実行モードに従う前記プラグインの実行は、前記複数のローダ・プロセスのうち、前記決定されたプラグイン実行モードに対応するローダ・プロセスを起動させて、前記プラグインをロードすることを含む、方法。

適用例 5 : 適用例 4 に記載の方法において、前記プラグインの安定性レベルが安定である場合には、前記ローダ・プロセスは共有ローダ・プロセスである、方法。

適用例 6 : 適用例 4 に記載の方法において、前記プラグインの安定性レベルが普通である場合には、前記ローダ・プロセスは独立ローダ・プロセスである、方法。

適用例 7 : 適用例 4 に記載の方法において、前記プラグインの安定性レベルが不安定である場合には、前記方法は、前記プラグインの実行を停止させることをさらに備える、方法。

適用例 8 : 適用例 4 に記載の方法において、前記プラグインの安定性レベルが不安定である場合には、前記方法は、前記プラグインの異常情報を取得および保存することをさらに備える、方法。

適用例 9 : 適用例 8 に記載の方法において、前記異常情報は、前記プラグインの異常動作の理由と、前記プラグインのプラグイン情報とを含む、方法。

適用例 10 : 適用例 1 に記載の方法はさらに、前記プラグインの安定性レベルを調整することを備える、方法。

適用例 11 : 適用例 10 に記載の方法において、前記プラグインの安定性レベルの調整は、前記プラグインが所定期間の間に異常動作した回数を決定することと、前記プラグインが所定期間の間に異常動作した回数の前記決定に少なくとも部分的に基づいて、前記プラグインの安定性レベルを調整することと、を含む、方法。

適用例 12 : プラグインを実行するシステムであって、1つまたは複数のプロセッサであって、実行されるプラグインの安定性レベルを取得し、少なくとも部分的に前記安定性レベルに基づいて、利用可能な複数のプラグイン実行モードから選択される、プラグイン実行モードを決定し、前記決定されたプラグイン実行モードに従って、前記プラグインを実行するように構成されている、プロセッサと、前記1つまたは複数のプロセッサに結合された1つまたは複数のメモリであって、前記1つまたは複数のプロセッサに命令を提供するように構成されているメモリと、を備えるシステム。

適用例 13 : 適用例 12 に記載のシステムにおいて、前記プラグインの安定性レベルは、記憶場所から取得される、システム。

適用例 14 : 適用例 12 に記載のシステムにおいて、前記複数のプラグイン実行モードは、利用可能な複数のプラグイン安定性レベルに対応している、システム。

適用例 15 : 適用例 12 に記載のシステムにおいて、前記複数のプラグイン実行モードは、複数のローダ・プロセスに対応しており、前記決定されたプラグイン実行モードに従う前記プラグインの実行は、前記複数のローダ・プロセスのうち、前記決定されたプラグイン実行モードに対応するローダ・プロセスを起動させて、前記プラグインをロードすることを含む、システム。

適用例 16 : 適用例 15 に記載のシステムにおいて、前記プラグインの安定性レベルが安定である場合には、前記ローダ・プロセスは共有ローダ・プロセスである、システム。

適用例 17 : 適用例 15 に記載のシステムにおいて、前記プラグインの安定性レベルが普通である場合には、前記ローダ・プロセスは独立ローダ・プロセスである、システム。

適用例 18 : 適用例 15 に記載のシステムにおいて、前記プラグインの安定性レベルが不安定である場合には、前記1つまたは複数のプロセッサは、さらに、前記プラグインの実行を停止させるように構成されている、システム。

適用例 19 : 適用例 15 に記載のシステムにおいて、前記プラグインの安定性レベルが不安定である場合には、前記1つまたは複数のプロセッサは、さらに、前記プラグインの異常情報を取得および保存するように構成されている、システム。

適用例 20 : 適用例 12 に記載のシステムにおいて、前記1つまたは複数のプロセッサは、さらに、前記プラグインの安定性レベルを調整するように構成されている、システム。

適用例 21 : 適用例 20 に記載のシステムにおいて、前記プラグインの安定性レベルの調整は、前記プラグインが所定期間の間に異常動作した回数を決定することと、前記プラグインが所定期間の間に異常動作した回数の前記決定に少なくとも部分的に基づいて、前

記プラグインの安定性レベルを調整することと、を備えている、システム。

適用例 2 2：プラグインを実行するためのコンピュータプログラム・プロダクトであつて、前記コンピュータプログラム・プロダクトはコンピュータ読み取り可能な記憶媒体に埋め込まれ、実行されるプラグインの安定性レベルを取得し、少なくとも部分的に前記安定性レベルに基づいて、利用可能な複数のプラグイン実行モードから選択される、プラグイン実行モードを決定し、前記決定されたプラグイン実行モードに従って、前記プラグインを実行するためのコンピュータ命令を含む、コンピュータプログラム・プロダクト。